

## 連携先世界遺産：清水寺

### 外国人観光客のための参詣曼荼羅(現代版)をつくる

外国人観光客に伝達しなければならない清水寺の世界観を探し、参詣曼荼羅という無言語の形式で独自に伝達する方法を試行する。

#### ■受講生

清水 瞭 (立命館大学・経営学部・2回生)、塚本 真子 (立命館大学・経済学部・4年生)、原田 大輝 (立命館大学・産業社会学部・3年生)、平原 健一郎 (立命館大学・経営学部・4年生)、森 大輝 (立命館大学・文学部・3年生)、吉川 陽菜 (龍谷大学・経済学部・3年生)、

#### ■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学・理工学部・准教授、講師、助手)

### 活動目的・概要

世界遺産・清水寺の参詣曼荼羅を用いて、境内の問題解決を図るPBL型授業を実施した。境内を観音菩薩の住処に見立てて描いた参詣曼荼羅は、参拝前に境内の世界観「観音補陀落浄土」を伝えるものである。近年、外国人観光客に伴い、境内の様子に加え、事前に伝えなければならないことが増えている。対応しなければならない言語は増え続けるため、観光客の使用言語に合わせて情報を多言語化するのは無意味である。清水寺での講話やフィールドワークから、事前に伝えなければならないことを発見し、言語に頼らない、外国人観光客のための新しい参詣曼荼羅を考案することを目指した。

学生を3グループに分け、清水寺で講話を聞き実地調査を行った。独自の視点で境内の外国人観光客に関するテーマを発見し、無言語のまま新しい参詣曼荼羅として表現する。成果物はホームページ等で公開し、参拝前の啓蒙に活用して頂くことが期待される。

本共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしている。



#### ◆主な活動

2016. 5. 22 ガイダンス、全体オリエンテーション  
 2016. 6. 19 世界遺産に関する学習、森清頭先生による清見寺の案内、グループ決定  
 2016. 6. 26 青柳先生による曼荼羅講義  
 2016. 7. 10 フィールドワークと第1回草案批評  
 2016. 8. 20 第2回草案批評、現地調査とアイデア作り  
 2016. 9. 12 第3回草案批評、各班によるアウトプットイメージや媒体の作成  
 2016. 9. 13 第4回草案批評、フィールドワーク

2016. 10. 2 第5回草案批評、具体的な媒体の決定  
 2016. 10. 15 森清頭先生への中間発表、清見寺の特性に関する講和  
 2016. 11. 8 第6回草案批評 (自主活動)  
 2016. 11. 20 第7回草案批評、最終提出に向けての具体化の作業  
 2016. 12. 4 成果物発表@清水寺 (森清頭先生)  
 2016. 12. 11 成果発表

## 活動の成果

参詣曼荼羅は、信仰の視点から「観音浄土」が描かれている。清水寺でのフィールドワークは、学生の目線から、外国人観光客に見て感じてもらいたい「観音浄土」を発見するべく、実施しました。各グループの発見した問題点を具体的に解決する現代の曼荼羅を以下のように提案しました。

## みんなで作る、みんなが感じるSHARE MADE MANDARA

外国人観光客等が発信するSNSに着目し、多様な視点を含む写真を大切な情報と捉えています。グループ①は、撮られた写真から多種多様な人々の感性を知り、清水寺の外の環境を含み、最新のマップと連携することで位置情報も含む参詣曼荼羅を提案しています。

Bこの参詣曼荼羅は、外国人観光客が自身で撮影した写真をアップロードする新しい参加型の曼荼羅です。国境を越えた共同制作を可能にします。写真の位置情報に基づいて、地図上に再分配され、清水寺の外の情報まで連続的に得ることができます。自分の位置情報と参照すれば、地図から清水寺のアクセス情報も得られ、参詣に寄与することも可能です。このように世界中から際限なく写真がアップデートされる参詣曼荼羅は、外国人観光客が単に受動的に情報を得るだけではない、主導的に情報を発信できる媒体となることを提案しています。



## +音 曼荼羅

無人の境内の「音」は、過去も現代も変わらず観音様だけが聞き続けている浄土観を伝える大切な情報として捉えています。グループ②は、外国人観光客は無論、すべての参拝者に対する新しい価値として、音を加えた参詣曼荼羅を着想し、音による浄土観の伝達効果を試行した参詣曼荼羅を提案しています。

日中の観光客で溢れかえる境内の「音」と早朝4時半、無人の境内の「音」を対比しています。無人の境内で録音した「音」を、今も昔も変わらない、参詣曼荼羅が描かれた当時の「音」として参詣曼荼羅に挿入し、2016年からタイムスリップする体験を誘うことを提案しました。「音」を与えた参詣曼荼羅は簡単な操作で再現可能とし、参拝前、参拝後どちらでも体験できるよう、インターネットにて提供できる媒体に纏めています。



## コマ割り曼荼羅

文化の異なる外国人観光客にとってなかなか伝達が難しい参拝法を一目で伝えることを目的としています。グループ③は、清水寺参詣曼荼羅との調和と踏襲を意識しながら、コマ割り=連続写真という技法のみで、境内の参拝法を伝達し浄土観を体験してもらうための参詣曼荼羅を提案しています。

行為を行う位置は、従来の参詣曼荼羅に描かれている点を利用し、簡単な記号で伝達されます。行為そのものは、単純無比な手法「コマ割り」で、加えて、行為の目的も伝達することに挑戦し、写真に工夫したイラストを追加し、見るべき点を分かりやすくしています。無言語化を徹底し、読ませるより、見せるパンフレットとして、参拝者の手持ちのハンドアウトとして利用して頂けるよう冊子型の紙媒体に纏めています。



## 活動を振り返って

- 清水寺を訪れる外国人観光客がどんなところに注目して参拝しているのかに焦点を当てフィールドワークを行い、1つの作品を作り上げる中で、課題設定から発掘して作品を完成させることは難しく時間もかかりましたが、メンバーの様々な視点や考えに気づかされることも多く、やりがいを感じられた授業でした。
- 課題解決にあたって、外国人参拝者に何を、どう伝えるか。これがこの科目の魅力であり、一番苦心した部分でした。
- 与えられたテーマは漠然としたものだったので、いかに自分たちで課題を見つけるか、課題解決方法を考え出せるかが問われる授業でした。
- 本質を捉えたうえでアイデアを出してそれをさらに深く突き詰めて発表して、とタフさを身につけられました。
- 分析することから物事を多面的に見ることが意識できるようになり非常に自分にとってプラス要素になりました。
- 班で1つの成果で作り上げる難しさを知りました。
- 苦しかった時もありましたが、最後までまとめたものができた時の喜びとても大きいものだと思います。
- 日本人ではわからない視点(外国人の視点)で考えるのはとても難しかったけど新しい発見がいくつもあって面白かったです。
- この授業を受けることにより、他大学との交流も深まりました。
- 京都の観光名所である清水寺で一年間授業を行うことによって、京都の四季を見に染みて感じる事ができました。

## 担当教員からのコメント

### 宗本晋作

この授業では、学生たちのモチベーションがとても高かった。今回は、課題を学生自身で発見しなければならなかったため、課題解決を見越した問題の設定に手こずっている学生が多かった。苦戦しながらも、各グループそれぞれ、新しい魅力や楽しみながら構想を組み立て、人に伝えようとする高い意欲を評価したい。学生たちの授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論、動画の創作活動により、期待以上の成果品ができた。学生たちの新鮮なアイデアを、共にブラッシュアップしていく過程で、私たち教員も多くの学ぶことができたように思う。

このように実り多い授業となった背景として、森清顕氏をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことも特筆すべきであり、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げます。

### 青柳憲昌

この授業は、16世紀に作成したとされる「清水寺参詣曼荼羅」という題材を用いつつ、現代社会にふさわしい「現代版・参詣曼荼羅」を提案してもらおうというのですが、このような難しい課題に対して学生たちはとても意欲的に取り組み、当初の期待以上の成果が生まれたと思います。特に外国人の参拝者が多くなった現代において文字情報に頼らない古来の参詣曼荼羅のありかたは現代にも示唆的といえますが、学生たちはそれぞれ外国人の視点に立って今の清水寺に何が求められているかを真摯に考え、参詣曼荼羅の特質を理解した上で、斬新かつ個性的な様々なアイデアを提案してくれました。清水寺の多大な援助と有益な助言もあって最終成果物の完成度はとても高いものとなったと思います。

### 遠藤直久

本年度初めての参加で自分自身にも非常に有意義で得るモノの多い授業でした。学生たちの中で当たり前のように存在する枠組みから飛び出して、森清顕氏や各教員、他大学の同世代の人たちとの共同作業を積極的にまた楽しんで創作活動していたように思います。このような取り組みに慣れないこともある中、非常にユニークで有意義な提案が生まれました。このような素晴らしい環境と機会を与えていただいた森清顕氏をはじめ関係者の方々に深謝いたします。

## 活動資料

## 2015.6.19 清水寺：森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった曼荼羅と近年の観光までの変化についてお話しいただきました。その後清水寺に現存する文化財について、また、サインのあり方や、観光客のマナーなどについて解説いただきました。

## 2016.9.12 清水寺：草案批評とフィールドワーク



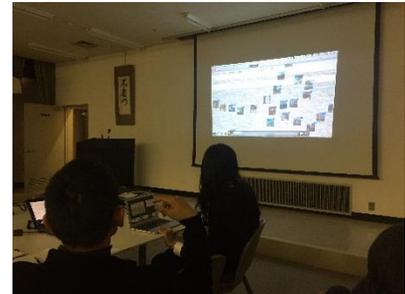
森清顕先生の話やインターネット等の情報を手掛かりに、各班が境内を探索し、観光客のための曼荼羅を考える作業を行いました。「作り出す」ということを目的に、アイデアを出し、実際に見るといふ行為のサイクルを学生が自発的に行いました。学生が考えた内容を教員と共有し、共に考える家庭で、徐々に形を作っていました。

## 2015.10.4 清水寺：動画ストーリー・構成の草案批評



草案の発表とその講評の中で、アイデアからより具体的な「モノ」に落とし込む作業を行いました。「曼荼羅」という最初に与えられていたテーマを各自が形に変えていく中で、よりユーザビリティの高い、また、よりよくアイデアが伝わる手段を試行錯誤しながら作り上げていきました。

## 中間発表会後、成果発表に向けて



中間発表での講評をもとに、成果発表に向け、各班が製作作業を行い「現代の曼荼羅」の作成に取り組んでいます。